



子育て通信

認定こども園ひばり保育園

福森良子

夜空に星がたくさん輝き、織姫と彦星が天の川を挟んで、1年に一度の再会を楽しみにしています。今年
は晴れるでしょうか？さて、プール遊びも始まり、水の中を歩いたり泳いだりしている子どもたちの楽し
そうな声が聞こえてきます。思う存分夏を楽しんでほしいです。

すくすく発達遊び

蛇口をひねる

こんな子どもいませんか？

次のような子どもの姿はありませんか？

- ・手を洗おうと水道の前に行っても蛇口をひねることが出来ず、水を出せないで悪戦苦闘している。
- ・そもそも蛇口のひねり方がわからない。
- ・蛇口の下に手を出して、水が出るのを待っている。

これらは、自宅ではレバー式の蛇口を使っていて手を上下に動かせば水が出る、センサー式の蛇口で手を動かす必要はない、といった現在の生活様式で過ごす子どもたちによくみられる姿です。また、水を出せても「水が冷たいから、手を洗いたくない」という子どももあり、その背景には、自宅では朝も晩も、夏も冬も、安定して適温の水が供給されているという生活環境があります。

どうしてそうなるのでしょうか？

生活様式によって変化する子どもの姿は、いつの時代にも見られます。昔であれば、「鉛筆を削るため、以前はナイフを使用していたが、今では電動の鉛筆削りがあるため、子どもたちが指を使う機会が減った」等と言われました。生活を便利にする様々な製品の登場によって、生活経験が奪われている事象の一例といえます。「蛇口をひねる」動作には、指でつまむ動きと手首をひねる動きが含まれています。これは鉛筆で字を書くことや、箸を使うことなどにつながる動きです。生活が便利になることは悪いことではありませんが、「蛇口をひねる」動作のように、生活の中で一日に何回も行っていた経験がなくなることによるリスクも、意識しておくといよいでしょう。

作業療法士の ワンポイントアドバイス

生活の中で工夫できる一例を紹介します。便利になりすぎているけれど、あえて手間をかけることを生活の中で探してみてください。小さな工夫が数多く散りばめられている生活環境が理想です。「危険だから」「便利だから」という理由で、子どもたちの生活経験が奪われてしまわないよう、大人は意識していきたいものです。

新体操の選手になろう

種目リボン・リボンの波を作ったり、ぐるぐると円を描いてみて

ミイラになろう

自分の腕や足に包帯ややわらかいひもを巻きつけてみて

ビンの蓋を開けよう

ふたを回して開け閉めして



ひばり保育園では、毎週月曜日と水曜日に園解放を行っています。
子どもに関するご相談がありましたら、お気軽に、お声掛けください。

子どもとやって
みてね。